

すべては、夢見ることから始まった。



SHINTOKU  
空想の森映画祭

'96/5

2 ▶ 6  
(THU) (MON)

会場 / 新得町新内ホール (旧新内小学校)  
主催 / SHINTOKU空想の森映画祭実行委員会、北海道新聞社  
協力 / 山形国際ドキュメンタリー映画祭、湯布院映画祭  
ゆうばり国際冒険ファンタスティック映画祭  
協賛 / 日本エアシステム (株) 帯広支店

# 上映プログラム

新内ホール (旧新内小学校)		新得町公民館
新内ホール	教室	《新得町憲法記念事業》 憲法記念事業実行委員会主催
5月2日 (木) 前夜祭	19:00 ■『映画創生期』 リュミエール兄弟他 (フランス) 40分 ▶ウェルカム・パーティー 各地の映画祭から、 ゲストを迎えて 参加費=1000円	10:00~19:00 ▶本橋成一写真展 『無限抱擁—— チェルノブイリ いのちの大地』 ▶森孝子世界の人形展 (共に5月7日まで)
5月3日 (金)	ドキュメンタリー映画 百花繚乱 (シーン1) 【歴史を想う】 10:00 ■『夜と霧』 アラン・レネ (フランス) 32分 11:00 ■『選択と運命』 ツイビ・ライベンバッハ (イスラエル) 118分 特集・亀井文夫と戦争 14:30 ■『戦ふ兵隊』1939年 亀井文夫 56分 ▶講演 阿部 隆 20:00 ▶アイヌ民族の唄と踊り 「ウタリーズ」	特集・20代の作家たち 16:00 ■『脳の休日』 水戸ひねぎ 20分 16:30 ■『世界が静寂 だったらい』 小笠嘉士 81分 19:00 ▶人形劇バセリ座公演 入場料=300円
5月4日 (土)	ドキュメンタリー映画 百花繚乱 (シーン2) 【「村の映画、 都市の映画、」 10:00 ■『黒い収穫』 ボブ・コノリー ロビン・アンダーソン (オーストラリア) 90分 13:00 ■『メタル& メランコリー』 エディ・ホニグマン (オランダ) 80分 15:00 ■『イマジニング・ インディアン』 ヴィクター・マサエスヴァ (アメリカ) 79分 19:00 ▶空想の森コンサート 波多野信子 宇井ひろし 塚田たかや 入場料=一般1500円 高校生 500円 中学生以下 無料	特集・小川紳介と 日本の村 9:00 ■『ニッポン国 古屋敷村』 小川紳介 210分 14:00 ■『1000年刻みの 日時計』 小川紳介 222分 13:00 ▶写真家・小林茂 チェルノブイリを語る 14:00 ▶小松沢陽一 &夏木マリ トークショー 「映画のある空間 —アポリアッツ、 ゆうばり、サンダ ンス、そして…」

新内ホール (旧新内小学校)		新得町公民館
新内ホール	教室	《新得町憲法記念事業》 憲法記念事業実行委員会主催
5月5日 (日)	ドキュメンタリー映画 百花繚乱 (シーン3) 【音を描く、 色を聴く】 10:00 ■『ピクチャー・ オブ・ライト』 ピーター・メトラー (カナダ・スイス) 83分 13:00 ■『テキサス・テナー』 アーサー・エルゴート (アメリカ) 81分 15:00 ■『音のない世界で』 ニコラ・フィリベール (フランス) 99分 19:00 ■『僕は 天使ぢやないよ』 あがた森魚 86分 ▶あがた森魚 ミニコンサート	特集・追悼 川谷拓三 14:00 ■『新座頭市 歌声が市を斬った』 勝新太郎 50分 ▶「役者・川谷拓三を 語る」 仁科 貴 (故川谷拓三長男) ■『警視—K オワリの日』 勝新太郎 50分
5月6日 (月)	ドキュメンタリー映画 百花繚乱 (シーン4) 【映画のある空間】 10:00 ■『阿賀に生きる』 佐藤 真 115分 14:30 ▶おすぎトークショー 「映画のある空間」 16:00 ■『100人の子供たちが 列車をまっている』 イグナシオ・アグエーロ (チリ) 58分 17:00 ▶さよならパーティー 校庭で焚き火を囲んで 参加費=1000円	特集・「炭鉱」の映画 10:00 ■『闇を掘る』 未編集フィルム上映 藤本幸久 120分 13:00 ■『躍進夕張』 北炭創立50周年 記念映画 1938年 60分 15:00 ■『女ひとり大地を 行く』 亀井文夫 1953年 138分 10:00~12:00 ▶親子ふれあい広場 (昔遊びと料理に チャレンジ) 13:00 アニメ映画 ■『Pipi— とべないホテル』 中田新一 90分

入場料/4日間通し券 一般 3000円  
 (前売券のみ) 高校生 1500円  
 (前夜祭・さよならパーティーのみ、別途参加費が必要です)

1日券 一般 1000円  
 (当日券のみ) 高校生 500円  
 (人形劇・空想の森コンサート・パーティーは、別途参加費が必要です)

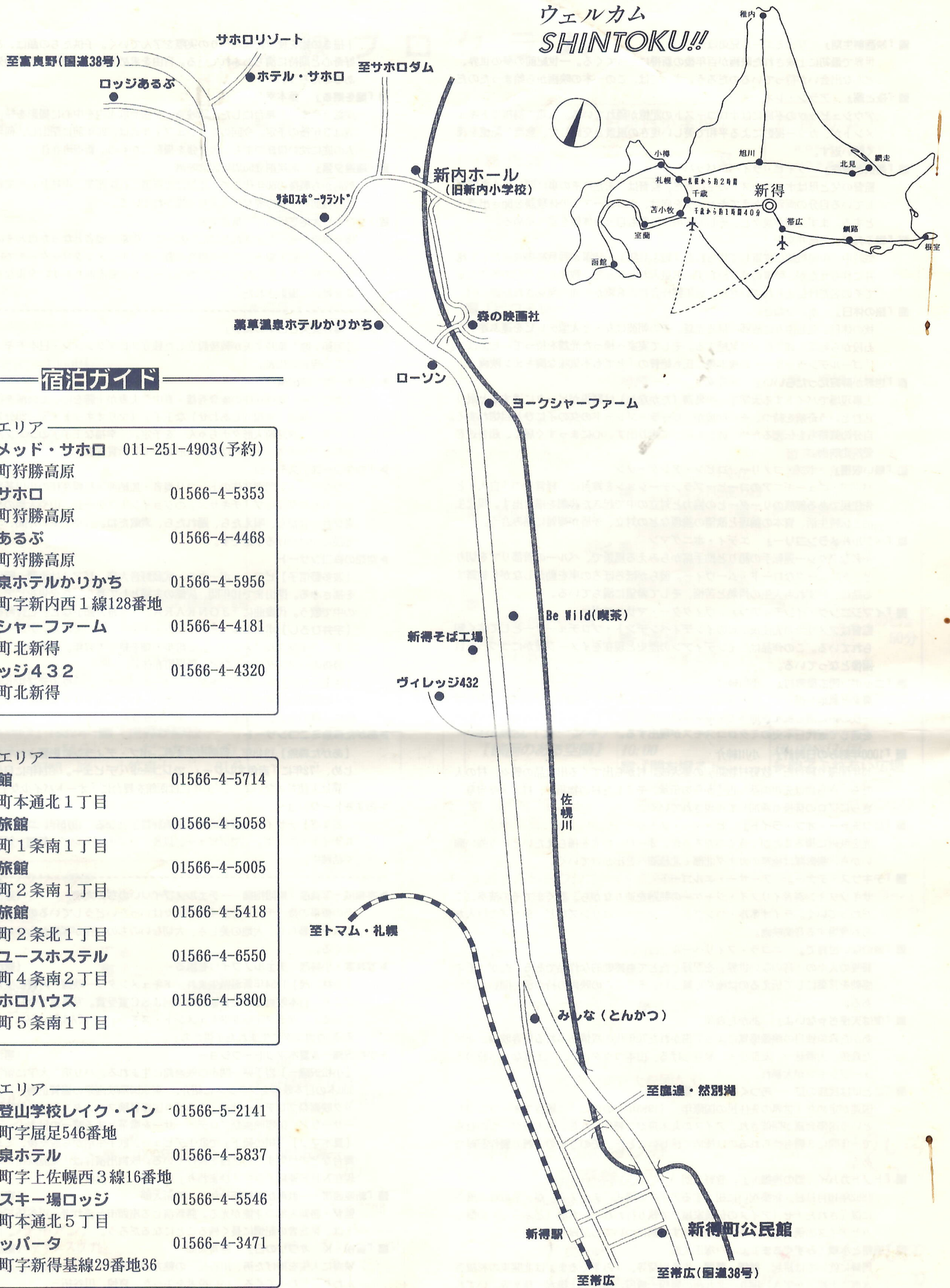
※新得町憲法記念事業は無料で入場できます。

前売券は道新プレイガイド (TEL 011-241-3871) で発売中。  
 新得町内の前売券販売所は、新得町公民館・屈足総合会館・  
 相馬商店です。

- 『映画創生期』 リュミエール兄弟ほか  
世界で最初に上映された映画が百年後の新得にやってくる。一世紀前の夢の世界、どんな出会いが待っているのだろう。すべては、この一本の映画から始まったのだ。
- 『夜と霧』 アラン・レネ  
アウシュビッツの平原にはホロコーストの記憶が隠れている。人類の禍根のドキュメントが、カラー撮影による平和で美しい現在の風景と交錯して、意識と記憶を深く問い返す。
- 『選択と運命』 ツィビ・ライベンバッハ  
監督の父と母はホロコーストの生存者だ。監督は、未だにその事に関して心を閉ざしている自分の両親にあえてカメラを向け、ホロコーストの体験談を聞き出すとする。まず父親が淡々と、そして次第に母親も自分の体験を語り始める。
- 『戦ふ兵隊』 亀井文夫  
戦時中、中国戦線に従軍して作られた『戦ふ兵隊』。陸軍が戦意高揚映画として亀井に作らせたが、陸軍の意に沿わず、お蔵入りとなった。戦後も長く幻の名作としてその名だけ伝えられていたが、近年製作会社の倉庫から偶然発見された。
- 『脳の休日』 水戸ひねき  
秋の休日、久しぶりに故郷へ帰る光雄。その朝彼は友人と大型テレビを運ぶ途中、石段から転落し頭を打って気絶する。そして実家へ帰った光雄を待っていたのは…。「ゴールデンラッキー」の榎本俊二氏も絶賛の「とても不気味な胸キュン映画」。
- 『世界が静寂だったらいい』 小笠嘉土  
工事現場でバイトする大学生、小鳥遊(たかなし)は緊張がピークに達すると眠り込むという奇病を持つ。そんな彼が、ローラーブレードの女の子にひと目惚れする。自分の気持ちを伝えるため、彼女を追って走り出す。心にまっすぐ届く、超音速恋愛疾走映画。
- 『黒い収穫』 ポブ・コノリー、ロビン・アンダーソン  
パプア・ニューギニアのコーヒープランテーションを舞台に、経営者の「白人」と先住民である部族のリーダーとの協力と対立の中で起きた悲劇を描き出す。現代生活と伝統生活、資本の論理と欲望の論理などの対立、矛盾が複雑に絡み合う。
- 『メタル&メランコリー』 エディ・ホニグマン  
多彩なタクシー運転手の語りと助手席からみえる風景で、ペルーの首都リマを切りとったユニークなロード・ムービー。彼らがぼろぼろの車を動かしながら披露する話は、いずれも人生の情熱と苦悩、そして希望に満ちている。
- 『イマジニング・インディアン』 ヴィクター・マサエスヴァ  
監督はアメリカの先住民ホピのインディペンデント・プロデューサーとして広く知られている。この作品は、インディアンの歴史と現在をイメージ豊かにつづった自画像となっている。
- 『ニッポン国古羅敷村』 小川紳介  
農家と農地を借りて、山形県牧野村のお百姓さんたちから稲作を学ぶ日々。田んぼ一枚の中に潜む風土を追ってカメラは回る。また、亡びゆく村の人々の「人生」を通じて近代日本史のマイクロコスモスが見出される。
- 『1000刻みの日時計』 小川紳介  
13年間撮り続けた「牧野村物語」の集大成。村から出てくる出土品の数々、村の人たち、さらには先祖の話、古くからの伝承。そうした村の物語が、村の人々自身、さらにプロの俳優も参加して再現されていく。
- 『ピクチャー・オブ・ライト』 ビーター・メトラー  
光を映画に撮ることができるのだろうか。オーロラの光を捕らえたいという強い願いから、撮影隊は極寒のカナダ北部・北極圏へと出かけていく。
- 『テキサス・テナー』 アーサー・エルゴート  
サクソフォン奏者イリノイ・ジャケの軌跡を辿りながら、あくまでその演奏にこだわっていく。ライオネル・ハンプトン、ソニー・ロリンズなど、ジャズの巨人たちも登場する音楽映画。
- 『音のない世界で』 ニコラ・フィリベール  
聾啞の人々の「音のない世界」を記録したとても感動的な作品である。だが、その感動を言葉にして伝えるのは極めて難しい。そこにこの映画の持つ深い問いかけがある。
- 『僕は天使ぢやないよ』 あがた森魚  
あがた森魚独自の映像感覚によって描かれた70年代の叙情あふれる青春映画。あがた森魚、大瀧詠一、友部正人、泉谷しげる、山本コウタロー、三上寛など当時のミュージシャンが大暴れ。
- 『ことばは民族の証——舟つくり編』 萱野志朗  
国連が定めた「世界の先住民の国際年」(1993年)の年に「二風谷フォーラム'93」という国際会議が開催され、アイヌの丸木舟が3艘作られた。丸木舟が一つのむらで一年間に3艘も作られるのは極めて珍しいことだ。そのうちの1艘の製作記録である。
- 『トノトカムイ(酒の神様)』 萱野志朗  
1992年10月11日、新築祝いに相当するアイヌの儀式「チセノミ」が、平取町二風谷に復元されたチセ(アイヌの伝統家屋)で執り行われた。お酒(どぶろく)の醸し方とアイヌの儀式におけるお酒の果たす役割についての記録である。
- 『馬耕と水車(みずぐるま)』 戸塚正太郎  
馬耕に就いては耕起、播種、薯蕷、牛乳出荷等、『みずぐるま』は北関東の杉線香水車、上総(かずさ)掘り、北九州の製粉、唐臼、踏み車、揚水、精米等、いずれも滅びゆくものであり、もう滅んでしまったものもある。馬耕も水車も撮影よりも捜す事の方が大変であった。いずれも未編集フィルム。(戸塚さんは新得で農業を営みながら、8mmフィルムの撮影をこの20年間続けている。)
- 『阿賀に生きる』 佐藤真  
新潟県阿賀野川沿いに生きる3組の老夫婦、3年間の時間をかけて阿賀に生きる人々を撮り続けたスタッフ。撮る側と撮られる側のコミュニケーション、その変化と進展ぶりが、あらゆる場面に脈打っている。
- 『100人の子供たちが列車をまっている』 イグナシオ・アグエーロ  
登場する子供たちは貧しいチリの子供たちだ。この子供たちが、女性教師の指導で

- 手描きの絵を使った映画作りの実際を学んでいく。子供たちの顔は、どの瞬間にも好奇心と期待に満ちあふれている。自由を求めて新しく旅立つための列車はどこにあるのだろう。
  - 『闇を纏る』 藤本幸久  
炭鉱(やま)を舞台にした記録映画。夕張や歌志内を中心に撮影を続けている。完成は3年後の予定。今回のラッシュフィルムは、20年前に閉山し、何年後かにはダムの中に沈む炭鉱のまち・大夕張を撮影したもの。新得町在住。
  - 『躍進夕張』 北炭創立50周年記念映画  
戦前から戦後の60年代まで、北炭は北海道の石炭産業の中核として栄華を極めた。その戦前の夕張の姿がたっぷりと描かれている。
  - 『女ひとり大地を行く』 亀井文夫  
爆発事故で死んだとされた父にかわって、炭鉱労働者となった母とその息子の姿を中心に、炭鉱労働者の生活や組合の闘いをドキュメンタリータッチで描いた作品。やがて死んだと思われていた父がひょっこりと姿をあらわす。夕張など北海道の炭鉱を舞台に撮影された。
- 
- ▶講演「亀井文夫と日本の戦争」  
【阿部 隆】亀井文夫が戦後設立した独立プロダクション・日本ドキュメントフィルムの現在の代表。
  - ▶人形劇パセリ座公演  
【パセリ座】新得在住の能登秀雄・真由美夫妻が十勝を中心に公演を行っている。今回の公演は「幸福(しあわせ)な王子」(マリオネット人形・20分)、「三匹の子ブタ」「腹話術人形タナちゃん」を予定。「幸福な王子」のシンプルにデザインされたマリオネット人形は札幌人形劇祭で美術賞受賞。
  - ▶「ウタリーズ」ステージ  
【ウタリーズ】門別在住のトンコリ奏者・加納沖+札幌在住の小川基率いるウボボとリムセのグループ「チキサニ」のジョイントステージ。山や大地の芽吹きの時を喜び合いながら、唄えたら、踊れたら、素敵だね。(小川基の仲間、エイサー隊も応援にかけつける予定です。)
  - ▶空想の森コンサート  
【波多野信子】ピアノ・ボーカル。武蔵野音大卒。ピアノは流麗、時に激しく、魂を揺さぶる。閉山まで10年間、炭鉱の主婦として暮らした夕張をピアノコンサートの中で歌う。代表曲に「JONKARA」「三番方節」など。石狩町在住。  
【宇井ひろし】ボーカル・マンドリン・ギター・ハーモニカ。アコースティックバンド「ウイラブル」メンバー。2町歩の畑を耕して17年。代表曲に「青虫のうた」「最後のシマフクロウ」など。新得町在住。  
【塚田たかや】ボーカル・ギター・パーカッション。「ウイラブル」メンバー。ピアノの調律の仕事で波多野信子と出会い、いつしかトリオで演奏するように。代表曲に「森の人よ」「芽生」など。東川町在住。
  - ▶あがた森魚ミニコンサート  
【あがた森魚】1948年、留萌市生まれ。ポップ・ディランに影響されて音楽活動をはじめ、'72年に「赤色エレジー」でレコード・デビュー。'74年に自作自演の映画「僕は天使ぢやないよ」、'93年には函館を舞台に「オートバイ少女」を製作。
  - ▶おすぎトークショー  
【おすぎ】デザイナー等を経て、映画評論家となる。1976年、ニッポン放送「オールナイト・ニッポン」でデビュー。以後、ラジオ・テレビ・新聞・雑誌…と、幅広く活躍中。
- 
- ▶本橋成一写真展『無限抱擁——チェルノブイリののちの大地』 (憲法記念事業)  
あの惨事の後、チェルノブイリの人々はいったいどうしているのだろう。事故の後の人々の暮らし、大地の美しさ、大切ないのちの存在が写真からひしひしと伝わってくる。
  - ▶写真家・小林茂 チェルノブイリを語る (憲法記念事業)  
【小林 茂】1954年新潟県生まれ。ドキュメンタリー映画「阿賀に生きる」の撮影により、日本映画撮影監督協会第1回JSC賞受賞。写真集「今日もせつせと生きている」「グラフィックドキュメント・スモン」「ばんばかばん」「トウ斯拉ビ希望 ウガンダに生まれた子供たち」。
  - ▶小松沢陽一&夏木マリトークショー (憲法記念事業)  
【小松沢陽一】岩手県一関市の映画館に生まれる。パリ第7大学に留学。4年間に300本の日本映画をフランスに紹介。東京国際映画祭の協賛企画・ファンタスティック映画祭プロデューサー、ゆうばり国際冒険ファンタスティック映画祭プロデューサーなど、国際映画祭プロデューサーを職業とする唯一の日本人。  
【夏木マリ】「絹の靴下」で歌手デビュー。歌手生活から脱皮後、ミュージカルや舞台などで目覚ましい活躍を続けている。映画出演作は「鬼龍院花子の生涯」など。現在NHK連続ドラマ「ひまわり」にレギュラー出演中。
  - 『新座頭市——歌声が市を斬った』 勝新太郎 (憲法記念事業)  
監督・勝新太郎の才能が光る。勝新演じる座頭市と流れ者・川谷拓三の別れのカットは、見た者の記憶に長く残ることになるだろう。
  - 『晝視-K オワリの日』 勝新太郎 (憲法記念事業)  
映画に人生を捧げた男、川谷拓三の魅力が画面いっぱい広がる。人間の哀感がじんわりと伝わってくる。いい役者を失った。哀悼、川谷拓三。
  - ▶「役者・川谷拓三を語る」 (憲法記念事業)  
【仁科 貴】故川谷拓三の長男。仁科さんは3才から12才まで川谷さんと別れて暮らした。川谷さんが「仁義なき戦い」でスポットライトを浴び、活動の舞台を東京に移していたからだ。一緒に暮らすようになってから、川谷さんはその空白を埋めるかのように、9年間の仕事を貴さんに語り続けてやまなかった。そして熱烈な「役者・川谷拓三」ファンがひとり生まれた。仁科貴である。
  - 『Pipi——とべないホタル』 中田新一 (憲法記念事業)  
アニメーション映画。羽に障害があつて飛べないホタルが、仲間外れにされて傷つきながらも、嵐などさまざまな場面で仲間を助けて仲良くなっていく。

ウェルカム  
SHINTOKU!!



**宿泊ガイド**

狩勝高原エリア

- ◆クラブメッド・サホロ 011-251-4903(予約)  
新得町狩勝高原
- ◆ホテルサホロ 01566-4-5353  
新得町狩勝高原
- ◆ロッジあるぶ 01566-4-4468  
新得町狩勝高原
- ◆薬草温泉ホテルかりかち 01566-4-5956  
新得町字新内西1線128番地
- ◆ヨークシャーファーム 01566-4-4181  
新得町北新得
- ◆ヴィレッジ432 01566-4-4320  
新得町北新得

新得市街エリア

- ◆新得旅館 01566-4-5714  
新得町本通北1丁目
- ◆宮城屋旅館 01566-4-5058  
新得町1条南1丁目
- ◆越中屋旅館 01566-4-5005  
新得町2条南1丁目
- ◆吉野屋旅館 01566-4-5418  
新得町2条北1丁目
- ◆サホロユースホステル 01566-4-6550  
新得町4条南2丁目
- ◆民宿サホロハウス 01566-4-5800  
新得町5条南1丁目

新得郊外エリア

- ◆トムラ登山学校レイク・イン 01566-5-2141  
新得町字屈足546番地
- ◆新得温泉ホテル 01566-4-5837  
新得町字上佐幌西3線16番地
- ◆新得山スキー場ロッジ 01566-4-5546  
新得町本通北5丁目
- ◆ラ・パッパータ 01566-4-3471  
新得町字新得基線29番地36

東大雪エリア

- ◆国民宿舎 東大雪荘 01566-5-3021  
新得町字屈足トムラウシ
- ◆オソウシ温泉 鹿乃湯荘 01566-5-3338  
新得町字屈足オソウシ

**SHINTOKU空想の森映画祭実行委員会**  
〒081 北海道上川郡新得町4条南2丁目 林繁雄方 TEL 01566-4-5921